

福祉のひろば

第26号

郡山地区社会福祉協議会

会長 庄子誠喜

令和三年度社協活動

地区社協会長 庄子 誠喜

令和三年度は、コロナ禍の一年となりました。感染は、五波にわたってピークがあり、現在六回目が増大中、高い山にならないことを祈るばかりです。

地域における福祉活動は、人々が集まる行事はやむを得ず断念し、福祉委員の研修会、一人暮らし高齢者の訪問、役員会の開催に限られました。

新年度は、安心できる時期を見計らい、感染予防対策を徹底して、小規模なサロンから始めたいと考えています。

仙台市社会福祉協議会は、人々の社会生活における、困りごとや悩みごと、等を受ける「何でも相談」の窓口を、いつでも開いています。

資格を持ったCSW(コミュニティソーシャルワーカー)が配置されており、地区社協とも連携して、話を聞く場所を設ける等して、「一人で悩まない」社会をつくらせて行きたいと考えています。

身近には民生委員、福祉委員もいます、話しやすいひとに一声かけて下さい。相談を待っています。



寄稿

仙台市社協太白区事務所

所長代理・CSW 竹本 裕子

「ひとり一人の暮らしを大切に」

郡山地域の皆様におかれましては、安全安心な福祉のまちづくりにご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

約二年前に新型コロナウイルスという未知のウイルスによる感染症が拡大し、私たちの生活に大きな変化が生まれましました。それと同時に社会のあり方が問われています。人と人との間に十分な距離を保ち、できるだけ接触を避けることが感染予防に必要とされる中で、ふだんの暮らしが失われている状態です。人と人との活動は大きな影響を受けました。

郡山地区においても、これまで開催してきた誰でも気軽に参加できる「オープンカフェ」や毎年開催している「ふれあい昼食会」や「あいあいサロン」も思うように開催できずに大変残念に思います。

そういった中でも、地域で暮らす方々のことを思い、一人暮らしの高齢者への一斉訪問を実施したり、感染対策をしながらサロンを開催したりするなど、コロナ禍にあっても工夫をこらしながら福祉活動を進めてくださる郡山地区の皆様にあたたかい敬意と感謝を申し上げます。

地域福祉とは「地域でつくるふだんのくらしのしあわせ」と捉えています。現

在は様々な福祉制度やサービスがありますが、制度やサービスがあれば住みよい地域になっていくでしょうか。自分の暮らしを大切にしながらも、同じ地域に住む誰かのために、ほんのちょっとした時間と気持ちを分け合っていて、向こう三軒両隣を気に掛け合い、できるときには手を差し伸べる。困ったときは助けてもらう。「お互い様ね」と顔の見える関係の中でつくる支え合いは「安心」を生み出します。安全は制度や仕組みが必要ですが、安心は人の心がつくり出します。これからの地域福祉活動は老若男女みんなが主役です。

郡山地区には熱心に福祉活動に取り組んでくださる民生委員、福祉委員、社協役員の皆様をはじめとして、人と人とのつながりを大切に思う方々がたくさんいらっしゃいます。このような方々と手を取り合いながら安全安心なまちづくりを地域の皆様と一緒に進めていけたらと思います。これからもよろしくお願い申し上げます。

※CSW(コミュニティソーシャルワーカー)だれもが安心して暮らせる地域づくりのために、福祉や暮らしの困りごと、地域福祉活動に関する相談に応じています。ちょっとした相談でも気になることや困り事がありましたら仙台市社協太白区事務所まで電話ください。

(TEL二四八八一八八)

あいあいサロン

10月11日、郡山在家町内「あいあいサロン郡山」を開催しました。風間町内会長より「コロナ、コロナで1人暮らしの皆様方外出も出来ず、淋しくしておりました所、あいあいサロンのお知らせ、とても嬉しく思います」とご挨拶頂き、喜んで出席して下さいました。折り紙でハロウィン、ビンゴゲーム、軽い体操、サプライズで郡山コミュニティセンター大宮館長のハーモニカ演奏で「赤とんぼ」「夕焼け小焼け」を唄って気持ちもほっこり、リフレッシュ、おしゃべり等楽しい時間を過ごす事が出来ました。今度、また、「宜しくお願いします」と皆様笑顔で帰りました。私達、福祉委員も幸せをいっぱい頂きました。

(福祉委員 赤井澤 イサ子、庄子 マリコ)



新型コロナウイルスの感染がかなり落ち着いてきた 11月18日、感染対策に十分配慮し、「籠ノ瀬町内会サロン」を開催しました。2年ぶりの再会となりました。

町内会長の挨拶、全員で自己紹介、お口の体操、手品、クイズ、ゲームなど楽しい時間を過ごしました。参加者はスタッフを含め18名です。今まで1番。活動を待ちわびていたのでしょう。最後に「北国の春」を歌い散会しました。

(福祉委員 高谷 新子)

研修報告

「地域福祉活動を学んで」

福祉委員 小畑 千代美

令和三年九月二十五日、民生委員児童委員及び福祉委員の合同研修会が開催されました。

仙台市社協、太白区事務所の竹本裕子様を講師に迎え「ともに生き、支えあうまち」をテーマにお話を聞かせて頂きました。

せんだい a i (アイ) プランとは、地域福祉活動計画という意味で、仙台市社協が中心となり、誰もが互いに尊重し合い、孤立することなく、自分らしく安心して暮らせる地域をみんなで作る事を目的に取り組んでいるそうです。

福祉委員として、地域の一人暮らしの高齢の方の見守りをしていますが、どこまで踏み込んだら良いか考えてしまう時があります。

お話の中に、誰かが自分を気にかけてくれる、誰かが自分を支えてくれている、誰かを自分が支えている、この事を感じながら、問題を共有し地区社協と連携し適切な機関へつなぐ、この流れを十分に活かすために、日々の活動の大切さを改めて感じました。

新型コロナウイルスの影響で、いまだに、コミュニケーションを取れる活動が制限されていますが、感染防止対策をしながら、何か出来ることを考えていきたいと思っています。



民生委員児童委員の

なり手はどうなるの？

民生委員児童委員 小笠原昭夫

「クラスに学級委員がいるように、みんなのま
ちには民生委員児童委員がいます」

最近、ポスター、テレビやラジオでよく耳に
します。現在、仕事をしながら民生委員として
活動されている方もおられます。そして民生委
員の高齢化が進んでいるのも確かです。



二〇二一年四月に、高齢者雇用安定法が改
正され、企業は雇用する六五歳までの安定した
雇用を確保するために必要な措置を講じなけれ
ばならない。また、七〇歳までの高齢者の就
業機会の確保が「努力義務」となりました。六
五歳〜七〇歳までもが現役に。退職の時には高
齢者です。民生委員ではありません。

町内会の役員や福祉委員も同じです。現役時
代からそれぞれ活動できる体制になればよいの
ですが。また、そのような事を願います。

寄稿

シカゴ紀行

ペンネーム「ゴンとし」

よんどころない事情によりアメリカのシカゴ
に昨年七月初めから八月末まで約二ヶ月ほど滞
在しました。往復は一人旅、久しぶりの海外旅
行でちょっと緊張。新型コロナウイルスが広まった時期
でもあり、いろいろと制約もありましたが、成
田空港は人が少なく出発までゆっくりと待つ事
が出来ました。しかしシカゴのオヘア空港に入
ると嘘のように人が沢山！税関前は長蛇の列。
なんでこんなに違うんだ！と思いました。税関
は日本のパスポートを見せるとすんなり通過、
日本人の信用度は絶大です。嬉しいです。

シカゴって？ピンときた方はほぼ高齢者、昔
テレビで見た「アンタッチャブル」を思い出し
たのではないのでしょうか？禁酒法時代のギャン
グ、アルカポネとFBI捜査官エリオットネス
の対決！今はそんな面影はなくまさに大都会で
す。映画にもよく登場する街です。

それでは簡単に街を紹介しましょう。緯度は函
館と同じくらいなので冬は寒く、ウィンディシティー
と名前が付く通り
風強く五大湖であ
るミシガン湖が東
側の直ぐ目の前に
広がっています。
東西二〇〇km、
南北五〇〇km、
日本人の感覚で
は海でないか？



とってしまっています。

行った時は夏真っ盛りで海水浴ならぬ湖水浴
を楽しむ老若男女がいっぱい。またここは摩天
楼発祥の街であり高層ビルが林立。一〇〇mを
超えるビルが三〇〇棟以上あります。街の真ん
中を川が流れており姉妹都市の大阪に似ている
ようです。人口は約二七〇万人、日本との時差
は十四時間、日本でお昼はあちらでは前日夜十
時、フライト時間は約十二時間です。タイムマ
シンで過去に行く感じがですね。

食べ物で名物はシカゴピザとギャレットポッ
ブコーン、ホットドッグくらいでしょうか。ピ
ザはディーブディッシュ・ピザ（深いお皿のピザ）
と呼ばれており初めて見ると厚さや大きさに
びっくりします。ただし日本のような繊細な食
べ物ではありません！やはり日本の味が恋しく
なります。

シカゴは見所がいっぱい。一人で地下鉄や
CTAトレインに乗って移動。今思えば自分な
がらよくやったな、と思います。

「シカゴ美術館」

は写真OK！（日本
では考えられない）
絵画までの距離が僅
か三〇cm、ゴッホ、
ピカソ、モネ、ルノ
アール、ゴーギャン、
ロートレック、等々。
作品に圧倒されま
す。滞在中は三回も
鑑賞しました。



「フランク・ロイド・ライト」建築を勉強した方なら必ず耳にする名前、日本の旧帝国ホテルを設計しております。邸宅や教会もデザインしておりその建物が纏まっている地区がオークパークです。この地区にはヘミングウェイの生家や博物館もあります。

川とミシガン湖を遊覧する「クルーズ船」も素敵ですよ。水上から眺めるビル群や大きな風景を堪能できます。言葉がもっと分かればもっと楽しめますが。トランプタワー（ニューヨークにもある）やウィルスタワーなど有名なビルが真上に見られます。ただしあまり上を向いていると首が痛くなります。



ビックリしたのはウォーター&エアショー、簡単に言うと松島基地にあるブルーインパルスの航空ショーを湖の上と街のご真ん中で披露するような感じです。ビックリ仰天、大爆音がビルの間にこだましたと思ったら突然戦闘機が姿を現す！日本だったらこんな低空で飛行するなんて絶対にダメでしょう。でもここはアメリカです。なんでも有りの世界を感じます。



又、学問の街としてアカデミックな雰囲気もあります。ノーベル賞受賞者を数多く輩出しているシカゴ大学やノースウェスタン大学等有名な学校も沢山あります。アメリカは多民族国家でもありいろんな人種が生活しております。なんととっても若い人が多い！自由に闊歩する姿を見るにつけ羨ましさを感じます。溢れるエネルギーと底力をじんじんと感じます。

これを書いている今の気分はもう一度行っても良いかなと。ご興味のある方は是非、シカゴへ。絶対に損はしないはず！

令和4年度 主な事業

5月中旬	総 会
6～3月	サロン（あいあいサロン） （オープンカフェ）
7月	民生委員・福祉委員合同研修
9月	ふれあい昼食会
11月	移動研修
2月	ふれあい昼食会
3月	福祉のひろば発行

※実行に当たっては時々の状況判断で開催できないこともあります。

随時開催：役員会、福祉委員会
随時参加：市社協議、研修等

編集後記

コロナ、コロナで三年目。現在、第六波、感染拡大中です。皆様、継続して、感染予防対策を徹底して参りましょう。

昨年、コロナ禍に、感染者及び死亡者が多い国に二ヶ月滞在した「ゴンとし」さんから寄稿を頂きました。なんと凄い行動力。マグニチュード幾らか測定出来ないほど、大きな衝撃（刺激）を感じました。

みんなで前を向いて、みんな希望を持って、きつと…きつと…明るい光がもうすぐそこに。

今年は、三十六年ぶりの五黄の寅年です。良い事がありそうですね。

「福祉のひろば」二十六号をお届けします。

編集事務局より